

*To Be a Good Company*

**2023年度 第3四半期決算概要  
及び 通期業績予想の見直し  
(上方修正)**

**2024年2月14日**



**東京海上ホールディングス**

## 業績ハイライト

- Key Messages ..... 2
- Executive Summary
  - トップライン 3Q実績・通期予想 ..... 3
  - 修正純利益 3Q実績 ..... 4
  - 通期業績予想の上方修正 ..... 5

## 2023年度 第3四半期決算概要

- 連結決算（修正純利益） ..... 7
- 自然災害の発生状況 ..... 8
- **国内損保事業（TMNF）**
  - 決算概要 ..... 9
  - 正味収入保険料 ..... 10
  - 発生保険金 ..... 11
  - コンバインド・レシオ ..... 12
  - 資産運用等損益 ..... 13
- **国内生保事業（AL）**
  - 決算概要 ..... 14
- **海外保険事業**
  - 正味収入保険料 ..... 15
  - 事業別利益 ..... 17
  - 決算概要（PHLY） ..... 19
  - 決算概要（DFG） ..... 20
  - 決算概要（TMHCC） ..... 21

## 参考資料

- 各種指標の定義 ..... 23
- 修正純利益の組替表 ..... 25
- 修正純資産・修正ROE ..... 26
- 事業別利益の組替表 ..... 27
- 為替変動のグループへの影響 ..... 28

◆資料内にて使用している事業会社の略称は以下の通りです

➢TMNF	: 東京海上日動火災保険	➢TMHCC	: Tokio Marine HCC
➢AL	: 東京海上日動あんしん生命保険	➢TMK	: Tokio Marine Kiln
➢PHLY	: Philadelphia	➢TMSR	: Tokio Marine Seguradora
➢DFG	: Delphi		

## 好調な3Q実績 (進捗率 79.4%)

- 修正純利益の3Q実績は5,203億円。通期予想（11月公表。以下、11月予想）に対して、79.4%の進捗率（過去5年平均\*1 77.0%）
- 国内は円高進行により為替のマイナス影響が縮小し、海外はほぼ全拠点において11月予想を上回って進捗した

\*1: 2018年度～2022年度における、11月予想に対する3Q実績の進捗率。以降も同様

## 通期予想の 上方修正 (修正純利益 +350億円)

- 海外の好調な保険引受および資産運用、為替\*2（▲140億円）、大口事故（▲80億円）などの増減を加味し、修正純利益の通期予想を、11月予想対比+350億円上方修正し、6,900億円とする（CREローンのトータルリターンについては、11月予想通り着地する見込み）
- 自然災害等の一過性の影響を除いたNormalizedベースの修正純利益は、11月予想（6,750億円）を若干上回る着地を見込む

\*2: TMNFは2024年1月末の為替、海外は2023年12月末の為替をそれぞれ使用

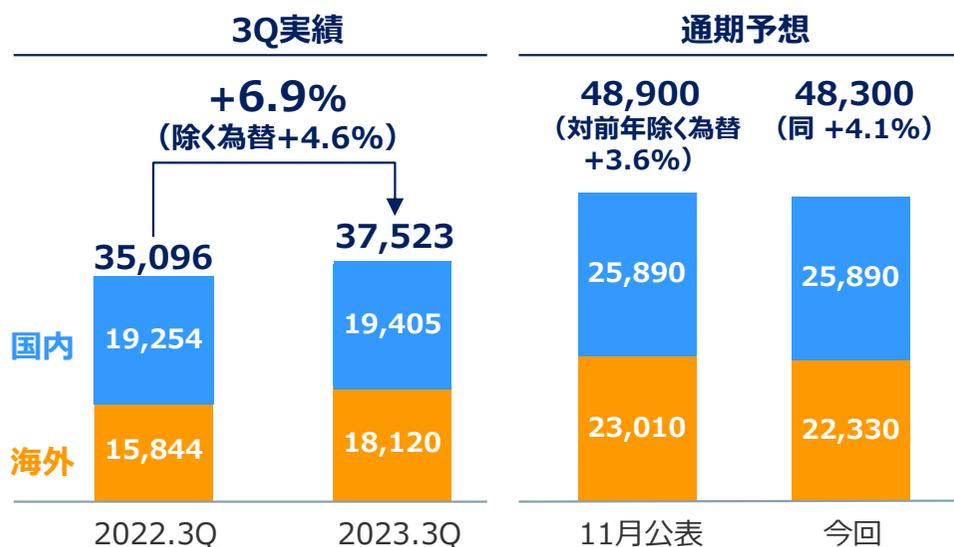
## 「保険料調整行為」 事案について

- TMNFは、昨年12/26に、金融庁より業務改善命令を受領。現在、同命令の内容や各種調査結果に基づく真因分析を踏まえ、改めてグループ全体のパーパスに立ち返ると共に、仕組み・体制面、意識面、知識面など、あらゆる観点から再発防止策を検討、実行しているところ。なお、業務改善計画は、2/29までに提出する
- また、TMNFは、昨年12/19に、7社・団体を保険契約者とする損害保険契約につき、公正取引委員会による立入検査を受けた。現在、同委員会の調査に全面的に協力しているところ

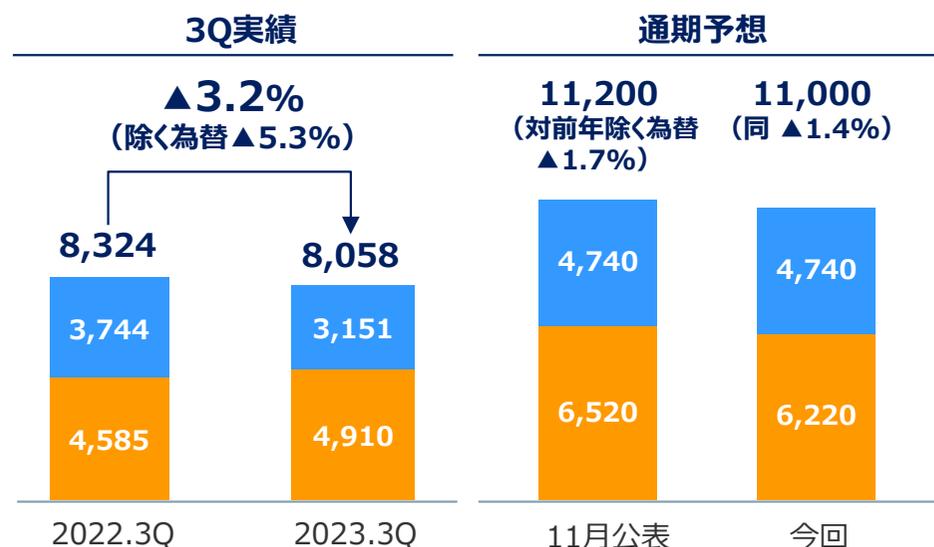
- 正味収入保険料は、海外のレートアップや引受拡大、国内の自動車とその他新種の増収等により、前年同期比+6.9%（除く為替で+4.6%）と11月予想の増収率を上回って進捗。生命保険料は、国内の事業保険の解約増加を主因に、▲3.2%（同▲5.3%）と11月予想対比で、若干ビハインド
- 大勢が決している海外の通期予想について、正味収入保険料は+7.9%に上方修正し、生命保険料は+4.0%にほぼ据置く（いずれも除く為替）

単位：億円

## 正味収入保険料



## 生命保険料



前年同期比

国内

+0.8%

+1.1%

+1.1%

▲15.8%

▲7.7%

▲7.7%

増収率

※除く為替

海外

+9.1%

+6.5%

+7.9%

+3.0%

+4.1%

+4.0%

### 【国内】

- 自動車とその他新種の増収が想定通りに進捗した一方、旅行保険の回復が想定を下回ったことを主因に、11月予想をやや下回って進捗

### 【海外】

- ほぼ全拠点において11月予想を上回って進捗。好調なレートアップや厳格な引受規律を維持した引受拡大等により、+9.1%の増収と基調は好調
- 通期では、対前年+6.5%（11月予想）から+7.9%に引上げ

### 【国内】

- 事業保険の解約増加を主因に、11月予想を下回って推移

### 【海外】

- アジア生保の減収を、好調なDFGの就業不能保障保険やTMHCCのMSL\*等が打ち返し、11月予想対比ほぼインラインで進捗
- 通期では、対前年+4.0%にほぼ据置く（11月予想は+4.1%）

- 修正純利益の3Q実績は5,203億円。通期予想（11月公表。以下、11月予想）に対して、79.4%の進捗率（過去5年平均 77.0%）
- 国内は円高進行により為替のマイナス影響が縮小し、海外はほぼ全拠点において11月予想を上回って進捗した

## 【各事業の事業別利益】

### 【TMNF】 961億円

（11月予想対比の進捗率：91.6%、過去5年平均56.8%\*1）

- 12月末為替が、11月予想対比で円高\*2となり、「外貨建支払備金の積増」および「金融派生商品費用の増加」が縮小したことを主因に、11月予想を上回って進捗

### 【AL】 240億円（11月予想対比の進捗率：68.8%）

- DFG委託分の運用収益を考慮すると、計画通りに進捗

### 【海外保険】 3,008億円（11月予想対比の進捗率：76.2%）

- 好調な基調を背景に、ほぼ全拠点において11月予想を上回って進捗

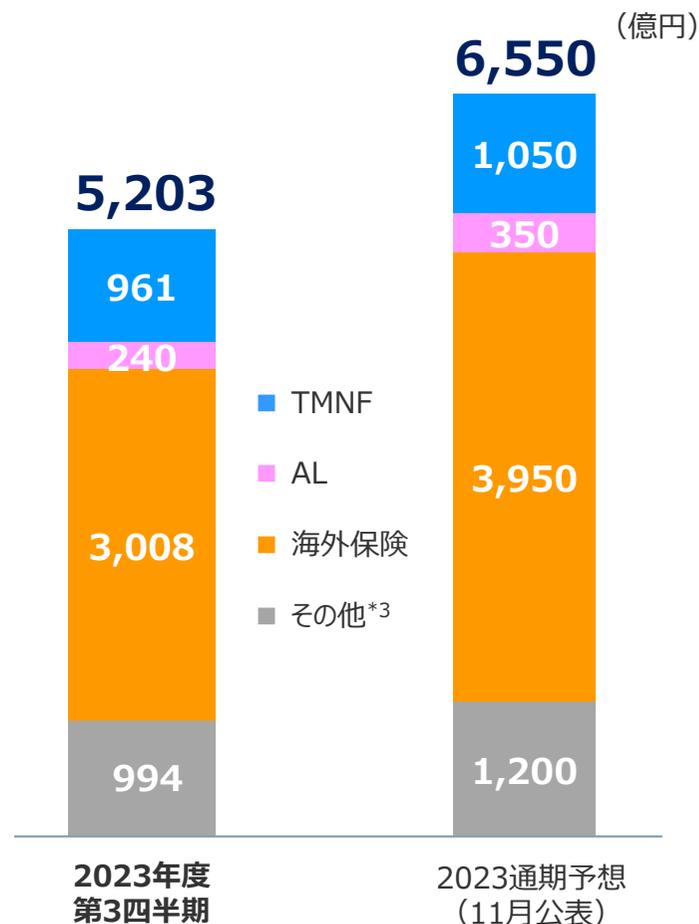
\*1: 大規模な自然災害の影響を受けた2018年度を除くと、85.6%

\*2: 11月予想=9月末レート（149.58円/USD）、3Q実績=12月末レート（141.83円/USD）

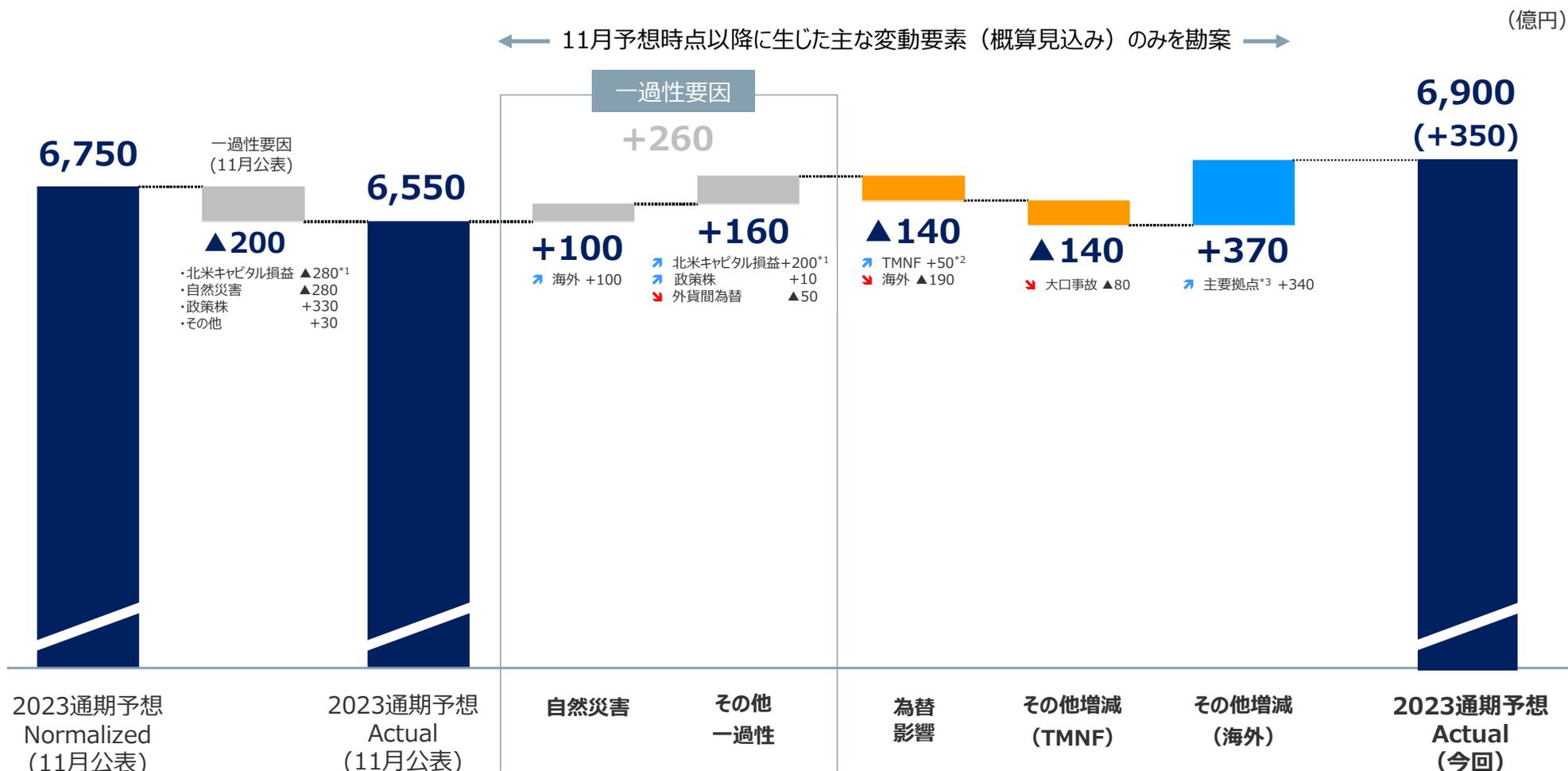
\*3: TMNF以外の国内損保や金融その他事業、政策株式売却損益など。以降も同様

11月予想対比  
進捗率 **79.4%**

（過去5年平均の進捗率：77.0%）



- 海外の好調な保険引受および資産運用、為替（▲140億円）、大口事故（▲80億円）などの増減を加味し、修正純利益の通期予想を、11月予想対比+350億円上方修正し、6,900億円とする  
（CREローンのトータルリターンについては、11月予想通り着地する見込み。詳細はP.20を参照）
- 自然災害等の一過性の影響を除いたNormalizedベースの修正純利益は、11月予想（6,750億円）を若干上回る着地を見込む



\*1: CECL引当の積増しを除く \*2: TMNFは、2024年1月末為替（147.55円/USD）を使用。1月末為替が、11月予想（149.58円/USD）対比で円高となり、為替のマイナス影響が▲400から▲350に縮小  
\*3: PHLI, DFG, TMHCC, TMK, TMSR, Pure



# 2023年度 第3四半期決算概要

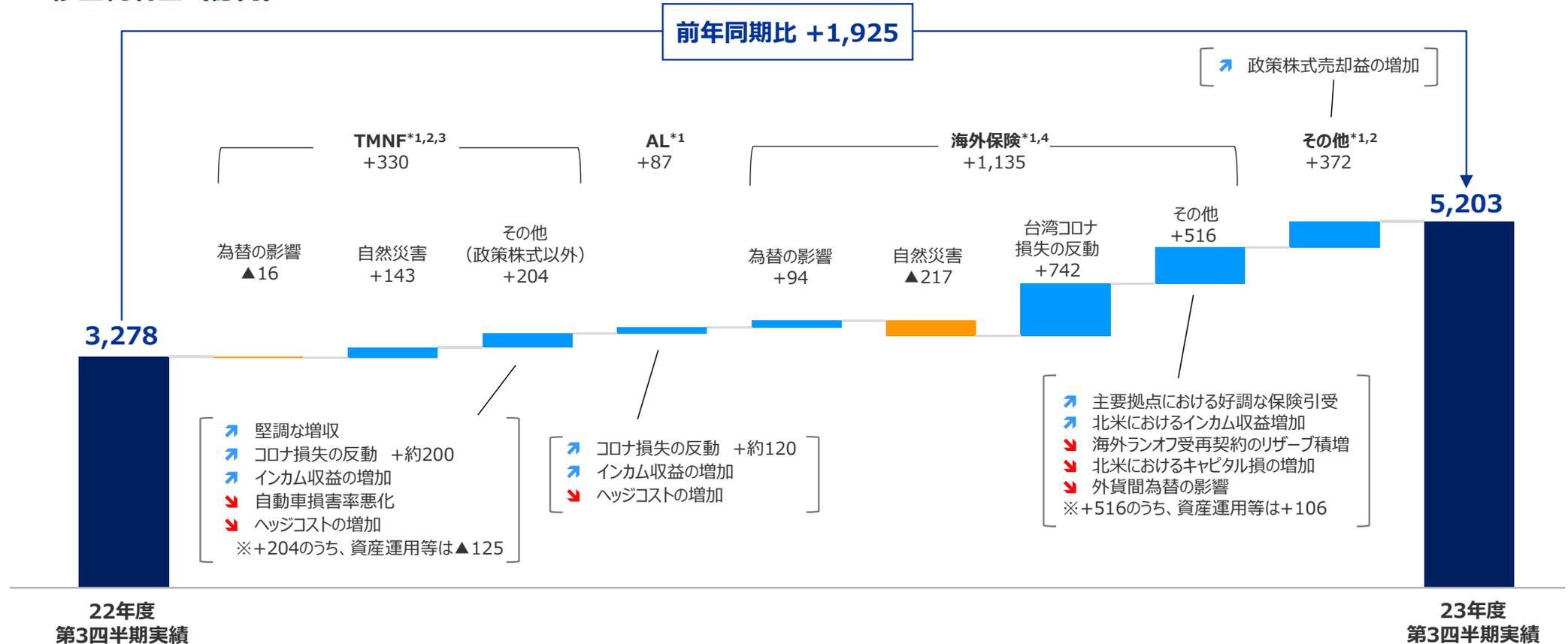
## <ご参考>

	為替レート (ドル/円)	
	22年度	23年度
12月末レート (国内損保・生保)	132.70円 (22年3月末対比10.31円安)	141.83円 (23年3月末対比8.30円安)
9月末レート (海外)	144.81円 (21年12月末対比29.79円安)	149.58円 (22年12月末対比16.88円安)

\*なお、通期予想 (11月公表) には、国内損保・生保・海外いずれも、23年9月末レートを使用

● 修正純利益は、国内外でのコロナ関連保険金の反動、海外主要拠点における保険引受利益およびインカム収益の増加、政策株式売却益の増加等を要因として、前年同期比+1,925億円増益の5,203億円となった

## ■ 修正純利益（億円）



\*1: 金額は各事業の事業別利益（「その他」はTMNF以外の国内損保や金融その他事業、政策株式の売却損益、連結調整など）

\*2: 政策株式の売却益は、事業別利益には含まれないが、修正純利益には含まれる

\*3: 財務会計利益の前年増減+2,000との主な差異は、各種準備金負担▲41、Pureの株式移管に伴う税費用減少効果・政策株式売却等+1,143、子会社配当金+145、その他特別損益等+417など（詳細はP.27）

\*4: 財務会計利益の前年増減+1,461との主な差異は、対象会社の差異+313など（詳細はP.27）

- 自然災害に係る発生保険金の3Q実績は、前年同期比+130億円増加の1,603億円（税引前）
- 通期の自然災害予算は、海外での足元の状況や円高進行を踏まえ、▲180億円減少の1,760億円（税引前）

## 自然災害に係る発生保険金（事業別利益ベース、億円）

税引前	2022年度 3Q実績	2023年度 3Q実績	前年増減*2
国内損保*1	993	805	▲187
海外保険	480	798	+317
合計	1,473	1,603	+130

税引後\*3

国内損保*1	716	581	▲134
海外保険	370	608	+237
合計	1,086	1,189	+102

2023年度通期予想		増減*2 (②-①)
①11月公表	②今回	
960	960	-
980	800	▲180
1,940	1,760	▲180

692	692	-
750	610	▲140
1,442	1,302	▲140

## 2023年度の主な自然災害(一定規模以上の自然災害を記載)

### 【国内\*1】

令和5年7月群馬・栃木雹災  
 令和5年台風2号  
 令和5年台風13号

### 元受発生保険金\*4

251億円  
 101億円  
 71億円

### 【海外】

ハワイ山火事

### 正味発生保険金\*4

383億円

### <ご参考>

令和6年能登半島地震

約40億円\*5  
 (上記は4Q計上予定)

\*1: TMNF、日新火災、イーデザイン損保の合計 \*2: +は収益にマイナス、▲は収益にプラス \*3: 税引後数値は概算 \*4: 税引前 \*5: 現時点での概算見込み。家計地震を除く

- Actualベースの事業別利益は、円高進行※<sup>1</sup>による為替のマイナス影響の縮小を主因に、11月予想対比91.6%で進捗
- 一過性の影響等を除いた事業別利益※<sup>2</sup>は1,743億円と、11月予想をやや下回って進捗（進捗率82.9% vs 過去5年平均83.8%）。なお、自動車保険の損害率は、11月予想に対して、概ね想定通りに進捗
- 前年同期比では、増収による増益効果や自然災害の減少等により、+330億円の増益

(単位：億円)

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年増減	2023年度 通期予想 (11月公表)	
				通期予想 (11月公表)	進捗率
<b>保険引受利益</b>	<b>443</b>	<b>697</b>	253	<b>1,010</b>	69.0%
（保険引受利益：除①~⑤）	<b>1,280</b>	<b>1,366</b>	85	<b>1,866</b>	73.2%
正味収入保険料（民保）	16,334	16,564	229	22,214	
既経過保険料（民保）*1	15,974	16,715	740	22,219	
発生保険金（民保）*2	▲10,649	▲11,073	▲423	▲14,428	
①国内自然災害	▲951	▲752	199	▲900	
②外貨建支払備金積増/積減	▲184	▲173	10	▲335	
上記以外	▲9,514	▲10,147	▲632	▲13,192	
事業費（民保）	▲5,157	▲5,202	▲44	▲7,191	
③異常危険準備金積増/積減	4	323	318	311	
自動車	86	496	410	685	
火災	▲17	▲146	▲128	▲304	
④自然災害責任準備金積増/積減	▲33	46	79	46	
⑤初年度収支残負担*3	326	▲112	▲439	20	
<b>資産運用等増益</b>	<b>2,067</b>	<b>2,431</b>	363	<b>2,839</b>	85.6%
<b>経常利益</b>	<b>2,523</b>	<b>3,143</b>	619	<b>3,870</b>	81.2%
<b>特別損益</b>	<b>▲711</b>	<b>▲60</b>	650	<b>▲115</b>	52.6%
<b>当期純利益*4</b>	<b>1,397</b>	<b>3,397</b>	2,000	<b>3,620</b>	93.9%
<b>事業別利益への組替（P.27）</b>	<b>▲766</b>	<b>▲2,436</b>	▲1,669	<b>▲2,570</b>	94.8%
<b>事業別利益</b>	<b>630</b>	<b>961</b>	<b>330</b>	<b>1,050</b>	<b>91.6%</b>

\*1 自然災害責任準備金積増を除く

\*2 損害調査費を含む

\*3 普通責任準備金積増額の内、未経過保険料の積増額を控除したもの

\*4 2023年度3Q実績は、Pureの株式移管に伴う税費用減少効果835億円を含む（但し、修正純利益および事業別利益には含まれない）

注）上表における符号は、利益方向に一致するように表示

## 【通期予想（11月公表）に対する進捗】

### — 事業別利益（Actualベース）

- ➡ 12月末為替が、11月予想対比で円高となり、「外貨建支払備金の積増」および「金融派生商品費用の増加」が縮小したことを主因に、11月予想を上回って進捗（進捗率91.6% vs 過去5年平均56.8%※<sup>3</sup>）

### — 事業別利益（一過性の影響等控除ベース※<sup>2</sup>）

- ➡ 資産運用損益が想定通りの進捗の一方、大口事故の影響等により、保険引受利益は11月予想をやや下回って進捗（進捗率82.9% vs 過去5年平均83.8%）

## 【ご参考】準備金の前年同期比

### — 異常危険準備金積増/積減

- ➡ 自動車：W/P損害率の上昇に伴う取崩増加
- ➡ 火災：自然災害の減少等によるW/P損害率改善に伴う取崩減少

### — 初年度収支残負担

- ➡ 主に自動車における前年同期の取崩の反動

※1: 11月予想=9月末レート(149.58円/USD)、3Q実績=12月末レート(141.83円/USD)

※2: Actualベースの事業別利益(961億円)から、国内自然災害(▲752億円)・為替(▲約330億円)の税後を控除

※3: 大規模な自然災害の影響を受けた2018年度を除くと、85.6%

- 3Q実績は、自動車保険やその他新種保険の増収が想定通りに進捗した一方、旅行保険の回復が想定を下回ったことを主因に、対前年+1.4%と、11月予想をやや下回って進捗

(単位：億円)

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年		2023年度 通期予想 (11月公表)	前年 増減率
			増減	増減率		
火災	3,202	3,124	▲77	▲2.4%	4,124	▲0.6%
海上	618	624	6	1.0%	846	▲0.5%
傷害	1,437	1,498	60	4.2%	2,049	9.7%
自動車	8,334	8,472	138	1.7%	11,332	1.7%
自賠償	1,584	1,513	▲71	▲4.5%	2,022	▲5.2%
その他新種	2,743	2,845	101	3.7%	3,864	4.1%
合計	17,921	18,079	157	0.9%	24,240	1.6%
内：民保合計	16,334	16,564	229	1.4%	22,214	2.3%

## 【通期予想（11月公表）に対する進捗】

- 火災
  - ➔ これまでの商品・料率改定効果の発現等により、概ね想定通りに進捗。前年増減率の3Q実績が通期予想を下回っているのは、22年10月料率改定前の駆け込みの反動によるもの
- 海上
  - ➔ 物流の減少等をレートアップ等で打ち返し、概ね想定通りに進捗
- 傷害
  - ➔ ヘルスケア領域等での増収の一方、旅行保険の回復が想定を下回り、11月予想をやや下回って進捗
- 自動車
  - ➔ 23年1月商品改定や特約付帯による単価アップの取組み等により、概ね想定通りに進捗  
(ご参考・対前年) ノンフリート保険料単価+1.8%、ノンフリート台数+0.0%
- 自賠償
  - ➔ 23年4月の料率引下げ（▲11.4%）効果の発現等により、概ね想定通りに進捗
- その他新種
  - ➔ 賠償責任保険を中心とした増収により、概ね想定通りに進捗

# 国内損保事業③：発生保険金（TMNF）



- 3Q実績は、円高に伴う外貨建支払備金積増の減少の一方、火災保険およびその他新種保険における大口事故の影響等もあり、11月予想をやや上回って進捗
- 前年同期比では、国内自然災害およびコロナ保険金の減少の一方、海外源泉契約における大口の発生保険金や、自動車保険の損害率上昇等により、増加

(単位：億円)

	2022年度 第3四半期 実績		2023年度 第3四半期 実績		前年 増減	前年 増減率	2023年度 通期予想 (11月公表)	
		国内 自然 災害		国内 自然 災害				前年 増減率
火災	2,168	647	2,121	372	▲46	▲2.2%	2,611	▲0.0%
海上	361	0	389	1	28	7.8%	552	19.1%
傷害	861	-	873	-	12	1.4%	1,200	7.7%
自動車	5,293	267	5,712	350	418	7.9%	7,606	9.3%
その他 新種	1,965	35	1,976	27	10	0.5%	2,457	▲1.1%
<b>合計</b>	<b>10,649</b>	<b>951</b>	<b>11,073</b>	<b>752</b>	<b>423</b>	<b>4.0%</b>	<b>14,428</b>	<b>5.8%</b>

注) 上表には損害調査費を含む

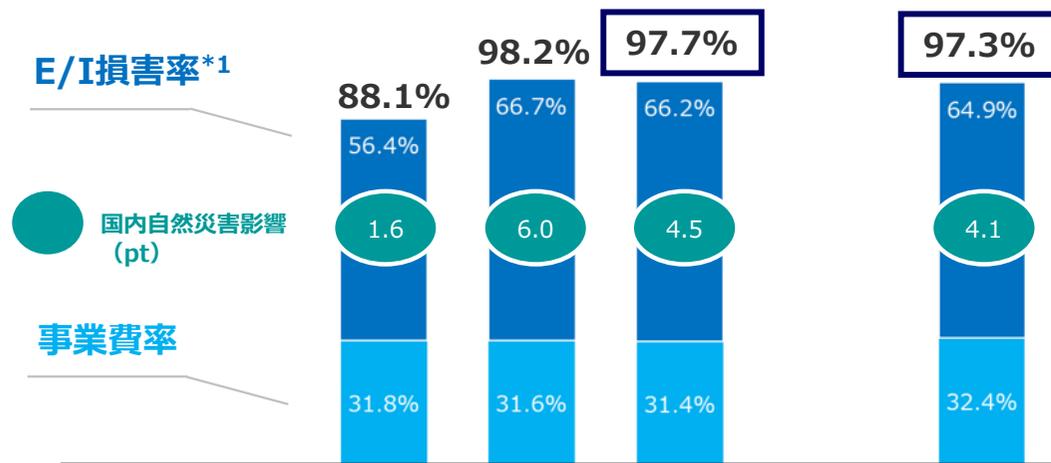
## 【通期予想（11月公表）に対する進捗】

- 火災
  - ▶ 円高に伴う外貨建支払備金積増の減少（▲約40億円\*）の一方で、大口事故の影響等により、11月予想をやや上回って進捗
- 海上
  - ▶ 円高に伴う外貨建支払備金積増の減少（▲約10億円\*）等により、11月予想を下回って進捗
- 傷害
  - ▶ 概ね想定通りに進捗。前年増減率の通期予想が3Q実績対比で高くなっているが、前年度のコロナ影響を除けば、同水準の増加率となる
- 自動車
  - ▶ 事故頻度は想定をやや上回った一方、保険金単価は想定をやや下回り、トータルでは、概ね11月予想通りに進捗。前年増減率の通期予想が3Q実績対比で高い理由は、前年度の4Qに暖冬による事故減少や過年度リザーブ取崩し等があったため
- その他新種
  - ▶ 円高に伴う外貨建支払備金積増の減少（▲約100億円\*）の一方で、大口事故の影響等により、11月予想をやや上回って進捗

\*: 11月予想対比の増減額

- コンバインド・レシオは、大口事故の影響等によるE/I損害率の想定対比での悪化に伴い、11月予想をやや上回って進捗
- 前年同期比では、トップライン増収等による事業費率低下、国内自然災害減少等に伴うE/I損害率低下により、改善

## コンバインド・レシオ（民保E/Iベース）



## 【通期予想（11月公表）】に対する進捗

- E/I損害率
  - 🔴 円高に伴う外貨建支払備金積増の減少の一方、火災・その他新種保険の大口事故の影響等もあり、11月予想をやや上回って進捗
- 事業費率
  - ➡ 社費率（10.9%）、手数料率（20.5%）ともに、インラインで進捗
- コンバインド・レシオ
  - 🔴 上記要因により、11月予想をやや上回って進捗

（単位：億円）

	2021年度 第3四半期 実績	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年増減	2023年度 通期予想 (11月公表)
正味収入保険料	15,455	16,334	16,564	229	22,214
既経過保険料*2	15,374	15,974	16,715	740	22,219
発生保険金*1	8,664	10,649	11,073	423	14,428
事業費	4,912	5,157	5,202	44	7,191
内：社費	1,696	1,769	1,812	43	2,568
内：代理店手数料	3,215	3,388	3,389	1	4,622

\*1 損害調査費を含む

\*2 自然災害責任準備金積増を除く

## E/I損害率\*1

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年増減	2023年度 通期予想 (11月公表)
火災	75.3%	65.7%	▲ 9.6pt	61.4%
海上	58.2%	59.7%	1.6pt	64.4%
傷害	65.3%	60.9%	▲ 4.5pt	60.2%
自動車	63.5%	67.9%	4.4pt	67.6%
その他新種	69.6%	66.1%	▲ 3.5pt	63.5%
民保合計	66.7%	66.2%	▲ 0.4pt	64.9%

## ● 円高進行に伴う金融派生商品費用の減少を主因に、11月予想をやや上回って進捗

(単位：億円)

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年増減	2023年度 通期予想 (11月公表)	進捗率
<b>資産運用等損益</b>	<b>2,067</b>	<b>2,431</b>	363	2,839	85.6%
<b>資産運用損益</b>	<b>2,405</b>	<b>2,754</b>	348	3,243	84.9%
<b>ネット利息及び配当金収入</b>	<b>1,753</b>	<b>2,061</b>	308	2,421	85.2%
利息及び配当金収入	1,976	2,279	302	2,708	
内国株式配当金	720	749	29	757	
外国株式配当金	804	1,003	198	1,140	
内国債券インカム	122	116	▲ 6	151	
外国債券インカム	15	11	▲ 3	15	
内国その他インカム <sup>*1</sup>	5	▲ 2	▲ 7	▲ 3	
外国その他インカム <sup>*2</sup>	205	243	38	440	
積立保険料等運用益振替	▲ 223	▲ 217	5	▲ 287	
<b>売却損益等計（キャピタル）</b>	<b>652</b>	<b>692</b>	40	822	84.3%
有価証券売却損益	791	1,281	490	1,639	
有価証券評価損	▲ 20	▲ 24	▲ 4	▲ 30	
内国株式評価損	▲ 3	▲ 5	▲ 2	▲ 3	
外国証券評価損	▲ 15	▲ 19	▲ 3	▲ 26	
金融派生商品損益	▲ 405	▲ 803	▲ 397	▲ 1,136	
為替差損益	264	236	▲ 27	338	
その他	22	2	▲ 20	11	
<b>その他経常収益・費用等</b>	<b>▲ 337</b>	<b>▲ 323</b>	14	▲ 404	

### 【通期予想（11月公表）に対する進捗】

- ネット利息及び配当金収入（インカム）**
  - 11月予想に対し順調に進捗  
※外国その他インカムの進捗率が低いのは、DFG委託分の運用収益が4Q中心に計上されることによるもの
- 売却損益等計（キャピタル）**
  - ➡ 12月末為替が11月予想対比円高となり、「為替差益の減少」を上回る「金融派生商品費用の減少」が生じたため、11月予想をやや上回って進捗
  - ➡ ヘッジコストは概ね計画通り
  - ➡ 政策株式売却額は1,510億円、売却益は1,290億円と順調

\* 1 内国証券のうち内国株式及び内国債券以外からのインカム

\* 2 外国証券のうち外国株式及び外国債券以外からのインカム

注) 上表における符号は、利益方向に一致するように表示

- 新契約年換算保険料は、回払変額保険の販売下振れや、保障性商品の競争激化による第三分野の減速等により、11月予想を下回って推移
- 事業別利益は、DFG委託分の運用収益を考慮すると、11月予想通りに進捗

(単位：億円)

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	2023年度 通期予想 (11月公表)	前年 増減率
	新契約年換算保険料	383	362	▲20	▲5.4%	550
	2023年 3月末実績	2023年 12月末実績	増減	増減率	2023年度 通期予想 (11月公表)	前年 増減率
保有契約年換算保険料	7,976	7,833	▲142	▲1.8%	7,920	▲0.7%
	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	2023年度 通期予想 (11月公表)	進捗率
経常収益	7,241	6,987	▲253	▲3.5%	9,140	
保険料等収入	5,876	5,712	▲164	▲2.8%	7,910	
当期純利益	146	230	83	57.3%	330	69.9%
経常利益	441	217	▲224	▲50.8%	320	
(-) キャピタル損益	282	▲6	▲289	▲102.4%	0	
(-) 臨時損益	▲7	▲4	3	-	▲10	
基礎利益	166	228	62	37.4%	330	
事業別利益	153	240	87	56.6%	350	68.8%

## 【通期予想（11月公表）に対する進捗】

### 新契約年換算保険料

- ➡ 回払変額保険の販売下振れや、保障性商品の競争激化による第三分野の減速等により、11月予想を下回って推移

### 事業別利益

- ➡ DFG委託分の運用収益が4Q中心に計上されること（11月予想に織り込み済）を考慮すると、計画通りに進捗

- 3Q実績は、ほぼ全拠点において11月予想を上回って進捗
- 前年同期比では、各拠点における成長施策の着実な実行（レートアップや引受拡大等）により、+6.7%の増収と、基調は好調

(単位：億円)

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績			(参考) 前年増減率 (除く為替*)	2023年度 通期予想 (11月公表)	前年増減率 (除く為替*)
	22年9月末	23年9月末	前年 増減	前年 増減率		23年9月末	
適用為替レート (ドル/円)	144.8円	149.5円				149.5円	
北米*1	14,819	16,154	1,335	9.0%	5.5%	20,440	3.3%
PHLY	4,171	4,560	388	9.3%	5.8%	5,810	4.9%
DFG	3,687	4,188	500	13.6%	10.0%	5,360	8.6%
TMHCC	6,021	6,488	466	7.8%	4.3%	8,150	2.3%
欧州*2	1,206	1,644	438	36.3%	22.5%	2,250	16.8%
中南米	1,822	2,394	571	31.4%	18.2%	3,170	16.2%
アジア・オセアニア	1,872	2,054	181	9.7%	5.8%	2,790	4.9%
中東・アフリカ	313	343	30	9.8%	12.2%	510	24.5%
損保計*3	20,036	22,590	2,554	12.7%	7.9%	29,160	6.0%
生保	1,029	923	▲105	▲10.3%	▲15.1%	1,280	▲10.6%
合計	21,065	23,514	2,448	11.6%	6.7%	30,440	5.1%

(ご参考) Pureレシプロカルの保険料 (GWPベース)

Pure	2,010	2,431	420	20.9%	17.1%
------	-------	-------	-----	-------	-------

海外保険事業の数値は、従来からIR資料などで開示している基準と合わせ、TMNFの在外支店や持分法適用会社、非連結会社なども合算した海外保険事業トータルの数値となっている (P.17も同様)

\*1: 「北米」に記載の数値には、TMHCCの欧州事業を含む。TMKの北米事業は含まない

\*2: 「欧州」に記載の数値には、TMKの北米事業を含む。TMHCCの欧州事業は含まない

\*3: 「損保計」に記載の数値には、生損保兼営の海外子会社で引き受けている生命保険事業の数値を一部含む

\*4: 円換算時の為替の影響を控除 (上記全ての注については、P.17も同様)

## 【3Q実績（1-9月）のポイント】

### – 北米（主要3社の詳細はP.19～21参照）

PHLY： 出再コスト増（想定通り）はあるものの、新規を中心に引受は拡大、レートアップも好調さを維持できており（3Q実績：+9%）、基調は好調

DFG： 損保（エクセス労災）・生保（就業不能保障・有給休暇補償・団体生保）共に、良好なレート水準のもとで、引受拡大できており、基調は好調

TMHCC： メディカルストップロス保険や米国外ビジネスを中心に、好調なレートアップ（3Q実績：+6%（A&H・Surety・Creditを除く））と引受拡大により、基調は好調

### – 欧州

ロイズ事業において、高いレートアップ（3Q実績：+9%）と引受拡大により、基調は好調

### – 中南米

下期は自動車保険の競争激化による料率引下げ圧力があるものの、上期までの好調なレートアップと引受拡大により、計画通りに進捗

### – アジア・オセアニア

経済活動の復調により、自動車保険・海外旅行保険を中心に、基調は順調

- 3Q実績は、ほぼ全拠点において11月予想を上回って進捗
- 前年同期比では、北米キャピタル損増加（▲約480億円）や海外ランオフ受再契約のリザーブ積増し（▲約240億円）、自然災害の増加（▲約220億円）を、各拠点の好調な業績や台湾コロナの反動（+約740億円）、円安進行（+約90億円）で打ち返し、+1,135億円の大幅増益と基調は好調
- 通期については、11月予想対比で、円安進行の縮小（▲約190億円）を、各拠点の好調な業績（+約620億円）が大きく打ち返す見込み

(単位：億円)

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替)	2023年度 通期予想 (11月公表)	進捗率 (除く為替)
	22年9月末	23年9月末				23年9月末	
適用為替レート (ドル/円)	144.8円	149.5円				149.5円	
北米	2,266	2,319 <sup>*1</sup>	52	2.3%	▲0.7%	3,180 <sup>*1</sup>	72.9%
PHLY	532	578	46	8.7%	5.2%	770	75.1%
DFG	995	1,060	65	6.6%	3.2%	1,480	71.7%
TMHCC	672	799	127	18.9%	15.1%	1,060	75.4%
欧州	▲8	259	267	-	-	320	81.1%
中南米	106	308	202	190.7%	160.9%	340	90.9%
アジア・オセアニア	▲601	236	837	-	-	230	103.0%
中東・アフリカ	11	13	2	22.4%	32.1%	20	68.7%
損保計	1,817	2,966 <sup>*2</sup>	1,149	63.2%	60.0%	3,910 <sup>*2</sup>	75.9%
生保	9	▲24	▲34	▲364.8%	▲346.5%	▲40	-
Pure	182	220	38	21.2%	17.3%	290	76.2%
合計	1,873	3,008	1,135	60.6%	57.3%	3,950	76.2%

\*1: ハワイ山火事が含まれる  
\*2: 海外ランオフ受再契約のリザーブ積増しが含まれる

## 【3Q実績（1-9月）のポイント】

### – 北米（主要3社の詳細はP. 19～21参照）

PHLY： 自然災害の影響があったものの、レートアップや過年度リザーブの取崩しにより、コンバインド・レシオは94.1%と堅調。インカム収益も好調であり、基調は好調

DFG： CECL積増し・減損損失等のキャピタル損の影響はあるものの、好調な保険引受やインカム収益が打ち返し、基調は好調

TMHCC： コンバインド・レシオを87.2%と良好な水準に保ちつつ、インカム収益も好調であり、基調は好調

### – 欧州

コンバインド・レシオは84.1%と好調な保険引受を維持しており、基調は好調

### – 中南米

上期の好調な保険引受や資産運用は継続しており、基調は好調

（ただし、4Qにおいて自動車保険の競争激化や大雨等の影響が一定程度発現している）

### – アジア・オセアニア

タイ・インドネシアにおける自動車保険の良好な保険引受等により、基調は好調

### – Pure

堅調なトップライン成長によるフィー収入の増加により、基調は順調

## ■ 主要勘定科目の増減

(単位：億円)

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替*2)
	22年9月末 (ドル/円) 144.8円	23年9月末 149.5円			
正味収入保険料	4,171	4,560	388	9.3%	5.8%
既経過保険料	3,881	4,216	334	8.6%	5.2%
発生保険金	2,384	2,649	264	11.1%	7.6%
自然災害	115	278	162	140.5%	132.8%
手数料・社費	1,196	1,318	122	10.2%	6.7%
保険引受利益	300	247	▲ 52	▲17.5%	▲20.1%
資産運用損益	374	515	140	37.5%	33.1%
事業別利益	532	578	46	8.7%	5.2%
損害率*1	61.4%	62.8%	1.4pt	-	-
事業費率*1	30.8%	31.3%	0.4pt	-	-
コンバインド・レシオ*1	92.3%	94.1%	1.9pt	-	-

\*1: 分母は既経過保険料

\*2: 円換算時の為替の影響を控除

## ■ 主要勘定科目の増減

(単位：億円)

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替*2)
	22年9月末 (ドル/円)	23年9月末			
適用為替レート	144.8円	149.5円			
正味収入保険料	3,687	4,188	500	13.6%	10.0%
既経過保険料	3,507	3,945	438	12.5%	8.9%
発生保険金	2,373	2,548	175	7.4%	4.0%
自然災害	-	-	-	-	-
手数料・社費	958	1,132	173	18.1%	14.4%
保険引受利益	176	265	89	50.8%	46.0%
資産運用損益	1,437	2,170	732	51.0%	46.1%
インカム損益	1,814	2,956	1,142	62.9%	57.7%
キャピタル損益	▲126	▲534	▲407	-	-
事業別利益	995	1,060	65	6.6%	3.2%
損害率*1	67.7%	64.6%	▲3.1pt	-	-
事業費率*1	27.3%	28.7%	1.4pt	-	-
コンバインド・レシオ*1	95.0%	93.3%	▲1.7pt	-	-

## ■ セグメント別正味収入保険料

(単位：億円)

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替*2)
	22年9月末 (ドル/円)	23年9月末			
適用為替レート	144.8円	149.5円			
損保	1,836	2,085	249	13.6%	10.0%
生保	1,851	2,102	251	13.6%	9.9%
合計	3,687	4,188	500	13.6%	10.0%

## (ご参考) CREローンのトータルリターン (23年度通期、東京海上グループ全体)

(単位：億円)

	11月予想	今回予想	増減
インカム	1,580	1,610	+30
キャピタル	▲450	▲470	▲20
(うちCECL)	▲270	▲340	▲70
(うち減損)	▲210	▲160	+50
合計	1,130	1,140	+10

※税前、数値は全て23年12月末為替で概算

<保険引受利益 + 資産運用損益 = 事業別利益にならない理由について>

- 左表に記載されない項目として、その他経常損益があるため
- その他経常損益の大宗は年金ビジネスにかかる調達コストであり、これは左表の資産運用損益（インカム損益）と対応しているもの

## ■ セグメント別損害率\*1

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減
損保	68.4%	65.6%	▲2.7pt
生保	67.0%	63.6%	▲3.4pt
合計	67.7%	64.6%	▲3.1pt

\*1: 分母は既経過保険料

\*2: 円換算時の為替の影響を控除

## ■ 主要勘定科目の増減

(単位：億円)

適用為替レート (ドル/円)	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替*2)
	22年9月末	23年9月末			
	144.8円	149.5円			
正味収入保険料	6,021	6,488	466	7.8%	4.3%
既経過保険料	5,618	6,057	438	7.8%	4.4%
発生保険金	3,742	3,808	65	1.8%	▲1.5%
自然災害	80	82	1	2.3%	▲0.9%
手数料・社費	1,197	1,470	273	22.8%	18.9%
保険引受利益	578	590	12	2.2%	▲1.1%
外貨間為替損益(ドル対ポンド・ユーロ)	84	▲1	▲86	▲102.2%	▲102.2%
保険引受利益(外貨間為替影響控除後)	493	592	98	20.0%	16.2%
資産運用損益	266	448	181	68.1%	62.8%
事業別利益	672	799	127	18.9%	15.1%
損害率*1	66.6%	62.9%	▲3.7pt	-	-
事業費率*1	21.3%	24.3%	3.0pt	-	-
コンバインド・レシオ*1	87.9%	87.2%	▲0.8pt	-	-

<既経過保険料-発生保険金-手数料・社費 = 保険引受利益にならない理由について>

- 外貨間為替損益の影響に加え、左表に記載されない項目として、持株会社の経費等があるため

## ■ セグメント別正味収入保険料

(単位：億円)

適用為替レート (ドル/円)	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	前年 増減率	(参考) 前年増減率 (除く為替*2)
	22年9月末	23年9月末			
	144.8円	149.5円			
北米損保	2,357	2,306	▲51	▲2.2%	▲5.3%
傷害・医療	1,799	2,007	207	11.5%	8.0%
米国外	1,850	2,169	318	17.2%	13.5%
合計	6,021	6,488	466	7.8%	4.3%

## ■ セグメント別損害率\*1

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減
北米損保	65.9%	63.9%	▲2.0pt
傷害・医療	76.9%	75.4%	▲1.5pt
米国外	53.0%	47.5%	▲5.5pt
合計	66.6%	62.9%	▲3.7pt

\*1: 分母は既経過保険料

\*2: 円換算時の為替の影響を控除



## 修正純利益（グループ全体）

透明性および比較可能性の向上／株主還元との連鎖

- 市場から見た透明性や比較可能性の向上、株主還元との連鎖の確保を目的として、グループ全体では財務会計をベースとした「修正純利益」を使用
- 資本効率（修正ROE）や配当原資の前提となるグループ全体の利益指標

## 事業別利益

長期的な企業価値拡大

- 各事業の利益指標は、経済価値等を考慮した企業価値を的確に把握し、長期的に拡大を目指す観点から、「事業別利益」を用いて経営管理を行う

### <主な違い>

		修正純利益	事業別利益
損害保険	政策株式売却損益	控除しない	控除
	資本性準備金繰入額	控除	控除
その他	のれん・その他無形固定資産償却費	控除	控除

## 修正純利益・修正純資産・修正ROEの定義

$$\begin{aligned}
 \text{修正純利益}^{*1} &= \text{連結当期純利益}^{*2} + \text{異常危険準備金繰入額}^{*3} + \text{危険準備金繰入額}^{*3} + \text{価格変動準備金繰入額}^{*3} + \text{自然災害責任準備金}^{*4} \text{ 繰入額}^{*3} + \text{初年度収支残}^{*5} \text{ の影響額}^{*6} \\
 &\quad - \text{ALM}^{*7} \text{ 債券・金利スワップ取引に関する売却・評価損益} - \text{事業投資に係る株式・固定資産に関する売却損益・評価損} + \text{のれん・その他無形固定資産償却額} - \text{その他特別損益・評価性引当等} \\
 \text{修正純資産}^{*1} &= \text{連結純資産} + \text{異常危険準備金} + \text{危険準備金} + \text{価格変動準備金} + \text{自然災害責任準備金}^{*4} + \text{初年度収支残}^{*5} \\
 \text{修正ROE} &= \frac{\text{修正純利益}^{*1}}{\text{修正純資産}^{*1,8}}
 \end{aligned}$$

- \*1: 各調整額は税引き後
- \*2: 連結財務諸表上の「親会社株主に帰属する当期純利益」
- \*3: 戻入の場合はマイナス
- \*4: 大規模自然災害リスクに対応した火災保険の未経過保険料
- \*5: 保険料から発生保険金の一部と事業費を控除した残高を、翌期以降の保険事故に備えて繰り越すもの
- \*6: 普通責任準備金積増額のうち、未経過保険料の積増額を控除したもの
- \*7: ALM = 資産・負債総合管理のこと。ALMの負債時価変動見合いとして除外
- \*8: 平均残高ベース
- \*9: 海外生保事業は「その他の事業」の基準により算出（利益については本社費等を控除）

## 事業別利益の定義

### ● 損害保険事業

$$\text{事業別利益}^{*1} = \text{当期純利益} + \text{異常危険準備金等繰入額}^{*3} + \text{価格変動準備金繰入額}^{*3} + \text{自然災害責任準備金}^{*4} \text{ 繰入額}^{*3} + \text{初年度収支残}^{*5} \text{ の影響額}^{*6}$$

### ● 生命保険事業<sup>\*9</sup>

$$\text{事業別利益}^{*1} = \text{当期純利益} + \text{危険準備金等繰入額}^{*3} + \text{価格変動準備金繰入額}^{*3} - \text{ALM}^{*7} \text{ 債券・金利スワップ取引に関する売却・評価損益} - \text{政策株式・事業投資に係る株式・固定資産に関する売却損益・評価損} - \text{その他特別損益・評価性引当等}$$

### ● その他の事業

財務会計上の当期純利益

$$\text{財務会計上の当期純利益} - \text{ALM}^{*7} \text{ 債券・金利スワップ取引に関する売却・評価損益} - \text{政策株式・事業投資に係る株式・固定資産に関する売却損益・評価損} - \text{その他特別損益・評価性引当等}$$

## 実質純資産の定義

$$\text{実質純資産}^{*1} = \text{連結純資産} + \text{異常危険準備金} + \text{危険準備金} + \text{価格変動準備金} - \text{のれん・その他無形固定資産} - \text{株主還元予定額} + \text{生保保有契約価値} + \text{その他}$$

# 修正純利益の組替表

(単位：億円)

## 組替表<sup>\*1</sup>

(注) 符号は利益方向にプラス表示

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	2023年度通期予想			
				2022年度 実績	11月公表	今回	今回-11月
親会社株主に帰属する当期純利益 (連結)	2,714 <sup>*5</sup>	5,174	2,460	3,764 <sup>*5</sup>	5,750	6,700	950
異常危険準備金繰入額 <sup>*2</sup>	▲ 38	▲ 242	▲ 204	▲ 49	▲ 270	▲ 320	▲ 50
危険準備金繰入額 <sup>*2</sup>	+ 9	+ 13	3	+ 20	+ 30	+ 30	-
価格変動準備金繰入額 <sup>*2</sup>	+ 32	+ 37	5	▲ 42	+ 60	+ 60	-
自然災害責任準備金 <sup>*3</sup> 繰入額 <sup>*2</sup>	+ 20	▲ 35	▲ 55	+ 8	▲ 30	▲ 30	-
初年度収支残の影響額	▲ 256	+ 79	335	▲ 332	▲ 20	▲ 20	-
ALM <sup>*4</sup> 債券・金利スワップ取引に 関する売却・評価損益	+ 9	+ 9	0	+ 1	+ 50	+ 50	-
事業投資に係る株式・固定資産に 関する売却損益・評価損	▲ 26	▲ 816 <sup>*6</sup>	▲ 789	+ 36	▲ 350	▲ 770 <sup>*6</sup>	▲ 420
のれん・その他無形固定資産償却額	+ 969	+ 974	5	+ 1,187	+ 1,300	+ 1,240	▲ 60
その他特別損益・評価性引当等	▲ 155	+ 8	164	▲ 153	+ 30	▲ 60	▲ 90
<b>修正純利益</b>	<b>3,278</b>	<b>5,203</b>	<b>1,925</b>	<b>4,440</b>	<b>6,550</b>	<b>6,900</b>	<b>350</b>

\*1 各調整は税引き後

\*2 戻入の場合はマイナス

\*3 大規模自然災害リスクに対応した火災保険の未経過保険料

\*4 ALM = 資産・負債総合管理のこと。ALM負債時価変動見合いとして除外

\*5 IFRS第17号遡及適用前の数値

\*6 Pureの株式移管に伴う税費用減少効果▲835億円を含む

# 修正純資産・修正ROE（2022年度実績、2023年度通期予想）



（単位：億円）

## ● 修正純資産\*1

	2022年度 実績	2023年度 予想 (11月)	2023年度 予想 (今回)	今回-11月
連結純資産	36,310 <sup>*3</sup>	43,580	45,930	2,350
異常危険準備金	+8,146	+7,870	+7,820	▲50
危険準備金	+466	+480	+480	-
価格変動準備金	+954	+1,000	+1,000	-
自然災害責任準備金	+205	+170	+170	-
初年度収支残	+314	+290	+290	-
のれん・ その他無形固定資産	▲8,406	▲7,860	▲7,970	▲110
修正純資産	37,991	45,550	47,720	2,170

## ● 修正ROE

	2022年度 実績 <sup>*3</sup>	2023年度 予想 (11月)	2023年度 予想 (今回)	今回-11月
連結純利益	3,764	5,750	6,700	950
連結純資産 <sup>*2</sup>	38,258	39,940	41,120	1,180
財務会計ROE	9.8%	14.4%	16.3%	1.9pt
	2022年度 実績	2023年度 予想 (11月)	2023年度 予想 (今回)	今回-11月
修正純利益	4,440	6,550	6,900	350
修正純資産 <sup>*2</sup>	40,116	41,770	42,860	1,090
修正ROE	11.1%	15.7%	16.1%	0.4pt

\*1 各調整は税引後

\*2 平残ベース

\*3 IFRS第17号遡及適用前の数値

## ● 国内損保事業\*1 (うちTMNF)

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	2023年度 予想 (11月公表)
当期純利益 (財務会計)	1,397	3,397	2,000	3,620
異常危険準備金繰入額等*2	+1	▲221	▲223	▲209
価格変動準備金繰入額*2	+27	+33	5	+44
自然災害責任準備金*3繰入額*2	+23	▲33	▲57	▲33
初年度収支残の影響額	▲235	+81	316	▲15
ALM*4債券・金利スワップ取引 に関する売却・評価損益	+12	+7	▲5	+44
政策株式・事業投資に係る株式・ 固定資産に関する売却・評価損益	▲590	▲1,734	▲1,143	▲1,805
グループ内配当金	▲798	▲944	▲145	▲1,028
その他特別損益 評価性引当等	+792	+374	▲417	+430
<b>事業別利益</b>	<b>630</b>	<b>961</b>	<b>330</b>	<b>1,050</b>

\*1 各調整は税引き後

\*2 戻入の場合はマイナス

\*3 大規模自然災害リスクに対応した火災保険の未経過保険料

\*4 ALMとは資産・負債総合管理のこと、ALM負債時価変動見合いとして除外

\*5 特別損益、本社費ほか

\*6 IFRS第17号遡及適用前の数値

## ● 国内生保事業\*1

(単位：億円)

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	2023年度 予想 (11月公表)
当期純利益 (財務会計)	146	230	83	330
危険準備金等繰入額*2	+4	+2	▲2	+6
価格変動準備金繰入額*2	+5	+5	▲0	+8
ALM*4債券・金利スワップ取引 に関する売却・評価損益	▲3	+2	5	+2
政策株式・事業投資に係る株式・ 固定資産に関する売却・評価損益	+0	+0	0	+0
その他特別損益 評価性引当等	-	-	-	-
<b>事業別利益</b>	<b>153</b>	<b>240</b>	<b>87</b>	<b>350</b>

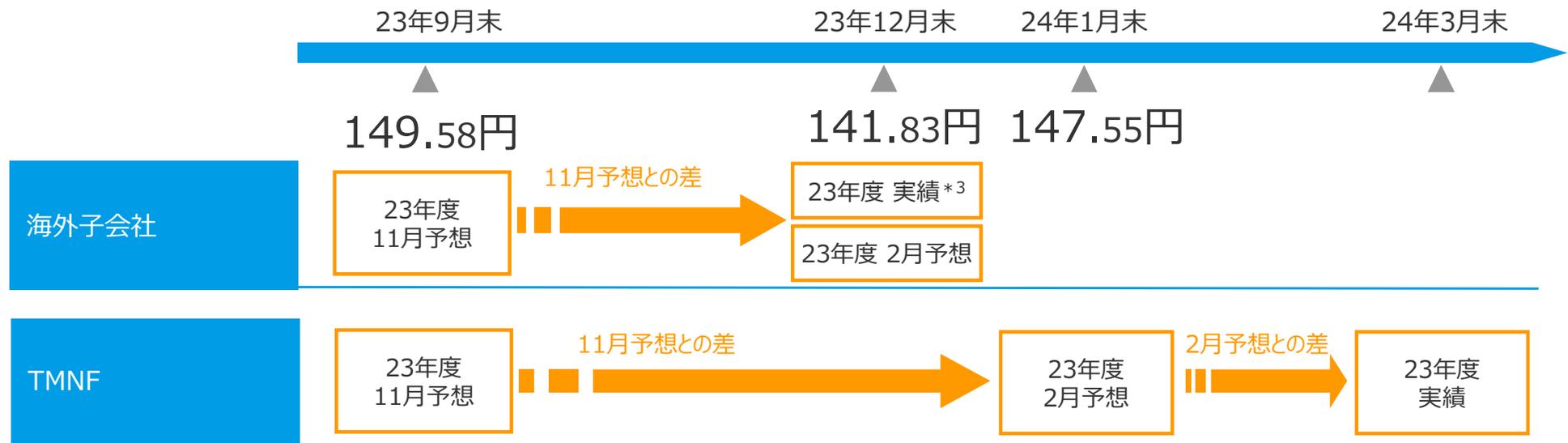
## ● 海外保険事業\*1

	2022年度 第3四半期 実績	2023年度 第3四半期 実績	前年 増減	2023年度 予想 (11月公表)
当期純利益 (財務会計)	2,034*6	3,495	1,461	4,170
少数株主持分の調整	▲1	▲12	▲11	
対象会社の差異	▲151	▲465	▲313	
その他調整*5	▲7	▲8	▲0	
<b>事業別利益</b>	<b>1,873</b>	<b>3,008</b>	<b>1,135</b>	<b>3,950</b>

● 1円の円安進行\*1があった場合の概算影響

財務会計上の当期純利益への影響*2		修正純利益への影響*2	
■ 海外子会社利益の増加 :	+ 約21億円	■ 海外子会社利益の増加 :	+ 約28億円
➡ 現地子会社利益の増加		(左記のうち、無形固定資産とのれんの償却費	
➡ 無形固定資産とのれんの償却費の増加		は修正純利益で足し戻されるため影響しない)	
■ TMNFにおける外貨建支払備金や	▲ 約24億円	■ TMNFにおける外貨建支払備金や	▲ 約24億円
為替デリバティブ損益等の変動 :		為替デリバティブ損益等の変動 :	
合 計 :	▲ 約3億円	合 計 :	+ 約4億円

● ご参考 : 適用為替レート (対米ドル)



\* 1: 各通貨の為替が米ドルと同様の比率で変動する前提

\* 2: 税引後ベース

\* 3: 海外子会社については、23年度実績および2月予想はいずれも12月末為替レートを適用するため、23年度実績と2月予想との間で為替変動の影響は生じない





## < ご注意 >

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載されています。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。

従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

## お問い合わせ先

東京海上ホールディングス株式会社

グローバルコミュニケーション部 IR・SRグループ

URL: [www.tokiomarinehd.com/inquiry/ir.html](http://www.tokiomarinehd.com/inquiry/ir.html)

To Be a *Good Company*



東京海上ホールディングス